

1

全身麻酔の流れ

麻酔前診察から手術終了後まで



麻酔前診察

手術の数日前に行う。

血液検査、呼吸機能検査、心電図、胸部エックス線写真撮影など、全身麻酔に必要な検査が終わったら、歯科麻酔担当医が患者を診察し、麻酔計画を立案する。併せて、麻酔についてのインフォームドコンセントを得る。



手術室入室

患者は手術室に入室し、氏名の確認を受ける。

手首に巻いたリストバンド（患者の氏名などを記載したバンド）での確認だけでなく、氏名を名乗らせることによる確認を行う。



モニター装着・静脈路確保

心電計、血圧計などのモニターを装着し、静脈路を確保する。

麻酔導入

静脈麻酔薬で入眠させたのち、マスクで人工呼吸を行う。マスクから酸素を投与するほか、吸入麻酔薬を投与することもある。



気管挿管

気管挿管が終わったところ。

経鼻的に気管チューブを気管内に挿入し、気管チューブをととして人工呼吸を行っている。



手術中

歯科麻酔担当医は、手術中も常に患者のそばにつき、全身状態を観察する。



手術終了後

手術終了後、麻酔から覚醒したら、気管チューブを抜去する。その後、全身状態を観察し、問題がなければストレッチャーに移し替えて病室に戻る。この時点で患者の意識は戻っている。

